この50年の世界 1968~2018

第1部 プラハの春 中

「政治家 良心ない」

旧支配層 はびこる汚職

1989年にチェコスロバキアで民主化運動が高まった際、デモに繰り出した市民らは、民主主義や自由の象徴として、かつて「プラハの春」を進めたドプチェク共産党第1書記の写真を掲げた＝プラハで11月23日、AP

旧チェコスロバキア
100km
ドイツ
ポーランド
プラハ
チェコ
スロバキア
ブラチスラバ

「階段を上るのは難しいが、下りるのは一瞬だ」

1968年のソ連軍事侵攻後、ソ連の圧力で改革を「中止」せざるを得なかったチェコスロバキアのアレクサンデル・ドプチェク共産党第1書記は、長男パボル・ドプチェクさん(69)に、無念そうにこうつぶやいた。

ドプチェク氏が目指したのは社会主義を維持したうえでの改革だったが、ソ連が「プラハの春」の動きには「反社会主義」運動に映った。ドプチェク氏は翌69年、党第1書記を解任される。その後は林業に関連する機械工として、隠とん生活を長年余儀なくされた。

パボルさんは父の勧めを受け「生きていくために」医者の道を選んだ。だが、「ドプチェクの息子」であるための不自由は多く、実家があるスロバキアのブラチスラバではなく、軍隊が駐屯する郊外の町に住むことを強制された。自宅のテレビの裏には盗聴器が取りつけられ、病院の同僚はパボルさんの情報を警察に報告する「スパイだった」という。パボルさんがブラチスラバに落ち着いたのは90年代初頭になってからだ。

パボルさんは自らの体験から「政治については評価はしたくない」と前置きした上で、現状について「共産党政権の協力者が（資本主義という）新しいコートを着て、利益を追うようになった。それ（拝金主義）は父が嫌悪していたことだった」と批判する。

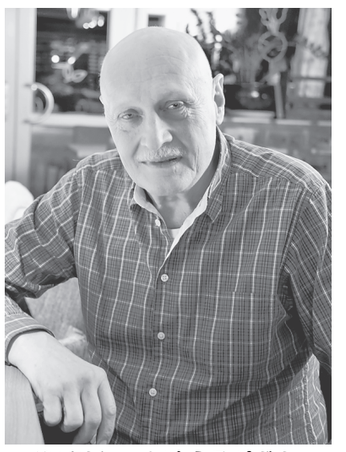
チェコスロバキアは89年の民主化後、共産党幹部らを訴追しなかった。国の将来を考え、官僚機構や知識人層を新たな国造りに活用しようというハベル大統領（当時）らの考えからだ。

だが、社会主義下での旧支配層の中には、民主化後に集まった海外からの莫大な投資に群がって、政治家人脈をビジネスに悪用する者がおり、汚職が横行した。

チェコとスロバキアは93年に分離。チェコは欧州連合（EU）加盟（2004年）の道筋をつけるまで親西欧だったが、クラウス前大統領（03~13年在任）らがその後、欧州懐疑主義にかじを切る。EUから補助金をもらい、支援を受けている立場だが「EUを批判し、チェコの主権を強調することで国内の支持を得ようとした」とカレル大学のミシェル・ペロティーノ教授は指摘する。

15年以降、中東などから欧州に難民が押し寄せたが、「プラハの春」の際には多くの難民を出して周辺国に受け入れてもらったチェコ、スロバキアとも難民の受け入れに消極的だ。

ドプチェク氏は民主化後に政界に復帰。連邦議会議長を務めた後、92年に自動車事故で死亡した。ドプチェク氏が存命で現役の政治家だったら、今どうするだろう。「知性と良心が根付く国は滅びない。だが一部の政治家は（目先の利益や票のために）良心を失っている。難民、食料問題や環境破壊……。政治家が取り組むべき課題はたくさんある」。パボルさんは父を代弁するように、そう言った。【プラチスラバで三木幸治】



インタビューに応えるパボル・ドプチェクさん＝プラチスラバで2017年12月13日

イラン厳戒態勢

テヘラン 放水や装甲車

テヘラン大構内で反政府デモに参加した大学生。治安当局が投じた発煙弾で煙が立ち込めている＝テヘランで2017年12月30日、AP

【テヘラン共同】「すぐに立ち去れ」。イランの地方都市から拡大した反政府デモが5日目を迎えた1日夜、首都テヘラン中心部では参加者と治安当局が衝突、サイレンの音が鳴り響く中、大型の特殊車両が群衆に激しい放水を行った。大勢の警官が周囲に威圧的な視線を向け、現場一帯は厳戒態勢が敷かれた。（2面参照）

商業施設が並ぶ交差点に配置された装甲車が非常事態を物語る。

「革命」を意味する市中心部のエンゲラーブ通りでは、治安当局が情報統制を強める中、インターネット上での呼び掛けに集まった参加者が、デモの最中に一時拘束された。

「ここでは絶対に立ち止まるな」。周囲では、混乱の拡大を阻止しようと警官隊が交通を厳しく規制していた。けん制のためか、頻繁に放水のしぶきを飛ばす。通行人は表情をこわばらせながら足早に歩き去る。

デモの参加者だろうか、少し離れた場所から若者らが隙をうかがうように警官隊の様子を見つめた。付近の路上で火を放たれたとされる車の映像も地元メディアで流れた。

2日前には同じ地区で発生したデモで参加者約200人が一時拘束されたばかり。緊張状態は一向に収まる気配がない。

「核戦争近づいている」

米元参謀本部議長が見解

【ワシントン共同】かつてないほど北朝鮮との核戦争に近づいている」との見解を示した。「現時点で外交的に解決する機会は見えない」とも述べた。ABCテレビのインタビューで語った。

米国が北朝鮮経済に大きな影響力を持つ中国に圧力を強めるよう求めていることについて、マレン氏は「トランプ大統領は、中国に今まで以上に行動させることに成功したと思うが、中国が続けるかどうかは不明だ」と指摘。中国が北朝鮮核問題の平和的解決に向け真剣に取り組まなければ「（軍事）衝突の可能性がさらに高くなると強く危惧する」と述べた。

トランプ氏のスタイルは「非常に混乱を招き、多くの点で予測不可能」で「長年の同盟国や友好国に（彼らを防衛する）米国の関与に対する疑問を生じさせ、敵国は不確実性を利用できるようになる」と懸念を示した。

発言は、北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長の「新年の辞」発表前。

ミニ論点 正恩氏「新年の辞」

北朝鮮は米国への強硬姿勢と韓国への対話路線で何を目指しているのか。米韓の専門家に聞いた。

米、日韓と結束示せ

ブッシュ（子）米政権 朝鮮半島担当大使 ジョゼフ・デトラニ氏

北朝鮮からの南北関係改善の提案は、米韓同盟にひびを入れようとする戦略の始まりだ。北朝鮮は同盟の分断を狙ってきた。米国は、韓国が対北朝鮮で日米と結束しているということを確実にしなければならない。

平昌冬季五輪に関する南北対話が実現するならば、北朝鮮が言及した「核弾頭と弾道ミサイルの量産」も議題にすべきだ。米韓合同軍事演習を中止か延期するには、少なくとも冬季五輪中は核実験とミサイル発射を行わないとの確約を得る必要がある。【共同】

南北の「融和」醸成も

韓国世宗研究所統一戦略研究室長 鄭 成長氏

今年の「新年の辞」の最も重要な特徴は、「核戦力の完成」への自信に基づき南北関係改善に積極的な意思を示した点だ。「核のボタンが机上に置かれている」などの表現で（米国に対する）安全保障の問題は解決されたとの認識を披歴。その上で平昌五輪に参加する意思を示し、南北関係改善に前例のない積極性を見せた。

韓米両国がこれを機に合同軍事演習の（五輪期間中を避けた）延期を近く発表、五輪参加を巡る南北当局者会談が実現し、融和ムードが醸成されることも予想される。

一方で金正恩氏は、核弾頭とミサイルの量産や実戦配備の加速を指示しており、今年も核・ミサイルの脅威は高まる公算が大きい。韓国政府は核問題の解決と南北関係改善をどう両立させるのか、より深く考える必要がある。【共同】

香港で抗議デモ

高速鉄道駅に中国法適用

【台北・福岡静哉】今年後半に開通予定の香港と中国広東省を結ぶ高速鉄道で、駅の一部や香港を走る車両内で中国本土の法律が例外的に適用される見通しとなった。香港では「1国2制度」で原則的に中国政府による法執行が認められておらず、1日には香港中心部で市民らがデモ行進し「香港の自治を守れ」などと抗議した。

中国国営新華社通信によると、中国の全国人民代表大会（全人代）常務委員会が昨年12月27日、関連草案を承認した。香港政府も実施に必要な関連法案を近く立法会（議会）に提出する見通しだ。法案は成立する見通し。

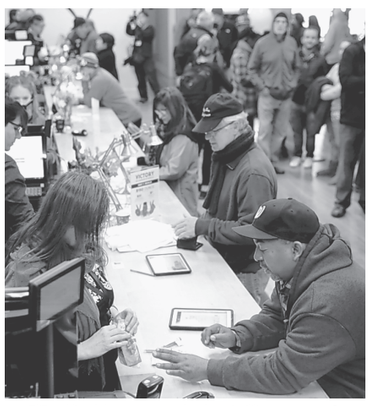
「1国2制度を守れ」と描いたプラカードを持ってデモ行進する参加者ら＝香港で1日、AP

香港は中国の一部だが、1国2制度で「高度な自治」が保障されている。香港メディアによると1日に民主派市民団体が主催したデモには約1万人（主催者発表）が参加した。

中国本土と香港の行き来には出入境の審査が必要。在来線では広東省、香港の駅でそれぞれ審査するが、高速鉄道では利便性向上のため、香港側の終点・西九竜駅で中国、香港両当局が同時に審査することになる。電車内での犯罪行為は香港区間を走行中でも中国本土の法で処罰される。

カリフォルニア 大麻解禁に列

米6州目 合法化加速か



販売が解禁された大麻を購入しようと行列を作る人々＝米西部カリフォルニア州オークランドで1日、ロイター

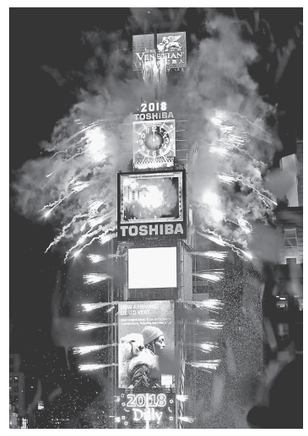
【サンディエゴ（米西部カリフォルニア州）長野宏美】2016年11月の住民投票で娯楽用大麻の合法化が承認されたカリフォルニア州で今月1日、大麻の販売が始まった。娯楽使用の大麻販売解禁は6州目。全米最大の人口を抱える同州の解禁で、合法化の流れが進むという見方があり注目されている。

今回の措置で、米国では5人に1人が娯楽用大麻の購入が可能になった。サンディエゴの販売店「トリー・ホリスティック」では1日午前7時の開店前から行列ができた。荷物検査や身分証明書の確認などを行っての店内に入る。同店は大麻の鉢植えや大麻入りキャンディーなど400種類を扱う。カップルで来店した女子学生(23)は「アルコールより健康的で経済効果もあると思う」と歓迎し、1グラム20ドルの大麻などを購入した。店員のリーフさん(25)は「ストレス解消などで、ビール代わりとして広がると思う」と期待した。

同州では1996年に住民投票で医療用大麻が全米で初めて認められ、16年に娯楽目的も承認された。大麻を酒やたばこと同様に嗜好品として扱い、21歳以上は一定の条件で所持や栽培などが可能。公共の場での使用は禁じられ、販売を認めない自治体もある。

合法化の背景には、闇取引が横行する中、当局が管理して課税する方が州の財源にでき、現実的だという判断がある。ロイター通信によると、解禁により年間10億ドル（約1130億円）の税収が見込まれるという。一方、西部コロラド州では合法化後、大麻使用者の交通死亡事故が増加し、身体への影響に懸念もある。

大麻は連邦法で禁じられているが、全米では西部ネバダ州など8州と首都ワシントンで娯楽用大麻が合法化されている。16年の住民投票で認められた東部マサチューセッツとメーンの両州は年内に販売が始まる見通し。



NY東芝広告 年越し見納め

【ニューヨーク共同】米ニューヨークの繁華街タイムズスクエアで12月31日から1月1日にかけて、新年の到来を祝うカウントダウンイベントがあった。2007年以降、東芝の巨大広告スクリーン＝写真・AP共同＝が新年までの秒数表示に使われてきたが、経営再建に向けた合理化の一環で18年前半に広告を打ち切るため、今回で最後となった。

東芝は07年12月、日本企業では初めて、一等地の「ワン・タイムズスクエア・ビル」の最上部に、巨大な発光ダイオード（LED）パネル広告を設置した。カウントダウンイベントには約100万人が集まり、10億人以上がテレビで見るとされる。

テレビ中継で大写しになる「TOSHIBA」の文字は、東芝の海外事業拡大の象徴だった。

トランプ大統領 パキスタン批判

【ニューデリー金子淳】トランプ米大統領は1日、「米国は過去15年間、パキスタンに3300億ドル（約3兆7000億円）以上を支援したが、パキスタンは米国をだましてばかりだ」とツイートした。隣国アフガニスタンでの戦争でパキスタンの協力が不十分だと改めて批判した形だが、パキスタンは反発している。トランプ氏は「（パキスタンは）テロリストに隠れ場を提供している」と書き込んだ。

地元メディアによると、パキスタンのアシフ外相は「米国はアフガン失敗の責任を自国民に負わすべきだ」と反論した。

ホワイトハウス トランプ氏帰庁

【ワシントン高本耕太】トランプ米大統領は1日、休暇を過ごした南部フロリダ州の別荘からホワイトハウスに戻った。2日から執務に復帰する。31日夜に開いたパーティーでは「2018年は素晴らしい年になる。すべてがうまく回り始めている」と述べた。米メディアが伝えた。

トランプ氏は22日から自身の所有する高級リゾート「マララーゴ」に移り、近親者とパーティーやゴルフをして過ごした。31日深夜からは、知人のカジノ経営者や親政権メディア関係者を招いた新年カウントダウンパーティーを開催。米CNNが入手した音声記録によると、あいさつで年末に成立した税制改革法や雇用者数増、保守派の連邦裁判事指名など就任1年目の「成果」を挙げ「歴代のどの大統領より多くを成し遂げた」と主張した。

■密輸の香港船、荷主はオランダ企業

韓国外務省は2日、公海上で北朝鮮船に積み荷の石油精製品を移し替えていたとして調べている香港船籍の貨物船「ライトハウス・ウィンモア号」の荷主がオランダ企業だと明らかにした。法人登記を太平洋・マーシャル諸島内に置き、台湾を拠点に活動する企業という。【共同】

■正恩氏が朝鮮総連議長に祝電

朝鮮中央通信によると、北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長は1日、在日本朝鮮人総連合会（朝鮮総連）の許宗萬議長宛てに新年の祝電を送った。金氏は祝電で「昨年、日本の悪質な弾圧策動の中でも、在日朝鮮人運動の全盛期を開く闘争で大きな前進を遂げた」と評価した。【共同】

■中国外務省、次官に孔氏が昇任

中国政府は2日、中国外務省の孔鉉佑次官補(58)を次官に昇格させる人事を発表した。孔氏は昨年、北朝鮮の核問題を巡る6カ国協議の議長を務める朝鮮半島問題特別代表に就任していた。【北京】

■パレスチナ、駐米代表召還へ

AFP通信などによると、パレスチナ自治政府のマルキ外相は12月31日、ゾムロット駐米代表（大使に相当）の一時召還を決めたことを明らかにした。トランプ米大統領がエルサレムをイスラエルの首都と認めたことを受け、今後の対米関係を協議するためという。【時事】

#BeautifulName 中国

私は張銘昊（ちょうめいあん）、3歳です。「安安」って呼んでね。お母さんは、幸せになれる意味があるって言ってたわ。ピース！【福岡静哉】

街角から シリアの酒

カイロ支局 篠田 航一

アラクという酒がある。内戦下のシリアで出会った人に勧められた。ブドウなどを原料とした蒸留酒で、透明だが水に混ぜると白濁する。甘みと香りが素晴らしい。

私は中東に来る前、ビール大国ドイツ、地酒のうまい青森に赴任し、各地で美酒に恵まれたが、シリアの酒も負けていない。だが隣国レバノンに行ったら、レストラン店長のイハブ・アユーブさん(49)に諭された。「何を言うか。レバノン産アラクの方がうまい」。この飲み比べも楽しい。

だが愉快な酒ばかりではない。シリアでは今、戦場に向かう前に少量のアラクを口にする兵士もいるという。一時的にでも戦闘の恐怖から逃れるために飲む。それは「悲しい酒」だろう。

イスラム教の聖典コーランは飲酒を戒めるが、中東は本来、豊かな酒文化の地だ。ビールを造った古代エジプト人はこんな警句を残している。「ビールを飲みすぎてはいけない。意味の分からぬ言葉が口から出てくる」

酔っ払って「意味不明の言動」をした人が古代にもいたのだろう。それから数千年。現代日本の酒場を歩けば、人類はあまり進歩していないことに気付く。

2018年が明けた。争いを終わらせるという「人類の進歩」を示せる年になるか。シリアで会った人々の無事を祈り、きょうもアラクを飲む。